

## 助成事業実施報告書

団体名 良い子食堂

代表者・役職名 氏名 柳澤重男・代表

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

良い子食堂

## 2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

毎月2回、第1・3土曜日の17~18時、団地集会所において子ども食堂を開催しました。月1回はボランティアスタッフ手作りの食事を会場で取れる体制を取っていますが、新型コロナ禍のため、参加者の強い希望により、全員が弁当での持ち帰りを選択しました。また、月1回は弁当を除く食材を配布しました。毎回60名余りの参加者があり、対象は中学生以下の子どもたちとそのひとり親で、全員無料としました。  
ボランティアスタッフは、食堂近隣在住の高齢者を中心に、高校生や大学生などの若者も数名加わっています。

## 3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

おかげさまで、年間24回開催することができ、毎回平均して60名前後、延べ人数で1,500名ほどの参加者を迎えることができました。またそのうち1回は同じ団地で実施しているシニア食堂と合同の食事会となり、食事のみならず、簡単なゲームなどで、ふだん接することが少ない高齢者と楽しく食卓を共にすることができました。  
ひとり親世帯が年々増加し、それに伴い貧困家庭の増加も著しく、そういう皆さんの大きな大きな心の支えとなってもらえたと、感謝の声を多数いただいております。  
また、良い子食堂参加者の約半数は会場となっている都営団地外の居住者で、当該地域での知名度も徐々に上がってきていることが感じられます。

## 4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

最大の課題が資金面であることは、最初から私たちの前に立ちはだかっています。八王子市から結構な助成をいただいておりますが、これもコロナ禍で一時的に増額されていたとのことで、今後の見通しは全く立っていません。  
2つめの課題はボランティアの確保です。現在はその多くが、年金暮らしとなっている高齢者が中心で、長時間大人数の食事を手作りする大きな負担となってきており、ちから仕事も難しいのが現状です。  
昨年になって、東京都の方針で、私どもの都営団地に、地元の大学に通う学生がシェアハウスで6名ほど住むようになってきており、彼らの助力も期待していきたいと考えています。

## 5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください



